

2025 年度 教職課程自己点検・評価 重点項目（教職員組織）			
中項目	教員の業績等		
観点	担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況 等		
専攻 学科等	評価	現状(長所・特色/問題点など)100字程度	次年度に向けた改善施策100字程度
院文言(院日・ 院英・院言)	適	国語科専修免許は日本語日本文学科所属教員、英語科専修免許は国際教養学科・国際日本学科所属教員により、必要な専門的知識の指導が行われている。すべての教員が学校教育現場での実務経験があるわけではないため、授業以外の活動で補う必要がある。	国語教育および英語教育について、自らの研究を深めつつ、専門の知識を深化させたい。また、学部と連携して、将来、学校教育現場に出る大学院生へのサポートを行いたい。
院生文	適	担当教員はいずれも、論文や学会発表、研究書や一般書の執筆を通じて各々の担当授業科目に関連した研究業績や実績を積み重ね、学校教育への展開について研鑽を重ねている。教育現場等において、専門性を活かした形で講演や模擬授業等を実施した実績も見られた。	次年度以降も教員免許状の取得を目指す学生の指導者としてふさわしいよう、各担当教員が授業科目に関する研究を深化させ、研鑽を継続する。学校教育現場や生涯学習の現場などでの実務経験者との連携についても模索していきたい。
院心理	適	担当教員はいずれも専門領域における論文・学会発表を重ね、高度な研究成果を授業に還元しつつ、教育現場における講演等でも専門性を発揮している。	次年度以降も研究を深化させ、教職大学院の特性を活かした高度な指導力の涵養に努め、高等学校教諭一種免許状公民取得を目指す学生の指導に研鑽を続けたい。
院人教	適	各教員の研究業績は専攻内で確認を行っている。届出を行っている教員6名中5名が実務経験があり、教育現場を想定した理論と実践に関連付けた指導が十分に行われている。幼児教育の実務経験者が2名しかいない点が課題である。	幼児教育の実務経験者の採用を目指している。また、新設する教育実習関連科目「特別教育実習Ⅰ」の充実を図っていく。
院科学	適	担当教員の研究業績や専門に関わる論文は申し分ない。現場での実務経験については、専門性の高い教員であるため、講演や体験授業での実績がみられる。	学生の研究テーマや教育実践指導において研究の学術性と教育現場への適応可能性の両面から指導を行う。そのために、教員の研究活動の促進とその成果を学生の指導や授業内容にフードバックする。
全学	適	特に教職専任教員は担当授業科目の分野が多岐にわたるが、関連する研究実績を着実につづけている。また、非常勤講師を含めて、学校現場等での実務経験を有する者または学校現場等とつながりながら研究を行う者が多く、それらの経験を教職課程の授業に活用・還元できている。	基本的には現状の通り、それぞれが担当授業科目の業績を着実に作れるよう、継続的な努力を促していく(適宜、組織的にチェックしながら)。また、主に教職専任教員は自分の専門の幅を広げて、担当授業科目に関する研究を充実できるよう、意識づけをしていきたい。学校現場等とのつながりは引き続き大切にしていく。
日文	適	日本文学・日本語学の時代区分別に専門の教員が授業を担当し、国語科教員に必要な専門的知識の指導を行っている。ただし、学校現場等での実務経験については全ての教員があるわけではなく、授業以外の活動で補う必要がある。	既に教員志望者向けサポート講座により、教育関係者の実習前の対策講座、ならびに、教育現場にいる卒業生から在学中の学習方法・実習・採用試験・現場の体験などを聞く機会を設けている。この質を向上させるため、学生の学習状況をふまえてその内容を講座担当者と検討していきたいと考える。
歴文	適	担当教員はいずれも、論文や学会発表を通じて、各々の担当授業科目に関連した研究業績や実績を積み重ねている。教育現場において、専門性を活かした形で講演や模擬授業等を実施した実績も見られた。	次年度以降も教員免許状の取得を目指す学生の指導者として、各担当教員が授業科目に関する研究を深化させ、研鑽を継続する。教育現場や実務経験者との連携についても模索していきたい。
国教(英コミ)	適	担当教員はいずれも、学会発表や論文、研究書、一般書の執筆などを行いそれぞれの担当授業科目に関連した研究業績や実績を積み重ね、学校教育への展開について研鑽を重ねている。教育現場等で、専門性を活かした形で講演や模擬授業等を実施した実績も見られる。	次年度以降も教員免許状の取得を目指す学生の指導者としてふさわしいよう、各担当教員が授業科目に関する研究を深化させるとともに、教育の質をはかっていききたい。また、学校教育現場等とのつながりは大切にしていきたい。
心理	適	担当教員はいずれも、論文や学会発表により、それぞれの担当授業科目に関する研究実績を重ねることができていた。教育現場において、専門性を活かして講演等を行った実績もあった。	次年度以降も引き続き、高等学校教諭一種免許状公民の取得を目指す学生の指導者として、各担当教員が授業科目に関する研究を進め、さらなる研鑽を続けて行きたい。
現代	適	現代教養学科では、高等学校「公民」の教員免許を取得できる。現代教養学科には、現代社会の諸課題に関する幅広い専門分野の教員が在籍していることから、各教員の専門分野を活かし、広い視野を持った教員を育成できる教職課程科目を設置している。	教職課程を担当する教員の1人が本年度で定年退職をするため、現在の教職科目を担当できる、研究業績が十分な教員の採用を目指している。
健康	適	家庭科、保健体育科のいずれも、担当教員はそれぞれの担当授業科目に関する研究実績を重ねることができていた。ただし、学校現場等での実務経験については全ての教員にあるわけではないため、授業以外の活動で補う必要がある。	次年度以降も引き続き、教員免許状の取得を目指す学生の指導者として、各担当教員が授業科目に関する研究を進め、研鑽を続けていく。また実務経験者との連携を図る。
管理	適	学校現場で学校栄養職員の実務経験のある教員が栄養教諭の教育実習まで一連の指導を行っている。一方で学生が子どもを取り巻く環境や食農教育の重要性等、実際に把握する時間を確保できず、学習指導案作成に難を要している。	次年度はゲストスピーカー及び校外に実際を見学できるような時間を確保し、学生の質の向上を図っていききたい。また教材研究等の時間を確保できるように授業時間の工夫を行いたい。
初教	適	担当教員は論文や学会発表等により、担当授業科目に関する研究実績を重ねている。研究活動や研修講師・講演等で現場の現状や課題に深い理解を有する教員や、学校現場等での実務経験を有する教員が多い、学校現場の現状に即した指導力を有している。	次年度以降も、各教員が授業科目に関する研究を重ねるとともに、科目間の連携も視野に置き、教育の質の向上を目指していきたい。また、教育現場に足を運び、教育現場の変化に対応できるよう、研鑽を重ねていきたい。

2025 年度 教職課程自己点検・評価 重点項目（教職員組織）			
中項目	教員の配置の状況		
観点	教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足しているか 等		
専攻 学科等	評価	現状(長所・特色/問題点など)100字程度	次年度に向けた改善施策100字程度
教育支援課	適	教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足している。 教員の配置は、毎年の教職課程委員会で課程認定を受けている学科等全体で資料を共有し、各学科等の意識付けをはかっている。	必要専任教員数の充足は教員人事と関連する事項のため、教職課程認定基準で定められた必要専任教員情報を各学科等へ継続して意識付けをはかる。

中項目	教員の業績等		
観点	担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況 等		
専攻 学科等	評価	現状(長所・特色/問題点など)100字程度	次年度に向けた改善施策100字程度
教育支援課	適	教職課程担当教員は、担当科目に関連する研究実績を有し、教育現場での教員経験や教育行政機関での実務経験を持つ者も多く、理論と実践を融合した指導を行っている。	点検の結果、現状を維持する。ただし、大学の改組や教員の退職等により担当教員に変更が生じる場合には、担当科目に関連する研究実績や実務経験の有無を確認し、引き続き教職課程の質を確保できるよう意識付けを行う。

中項目	職員の配置状況		
観点	教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか 等		
専攻 学科等	評価	現状(長所・特色/問題点など)100字程度	次年度に向けた改善施策100字程度
教育支援課	適	教職課程に関する履修指導、教育実習、免許状申請事務等については、教学支援センター教育支援課及び全学共通教育センターに担当職員を配置し、事務業務を行っている。また、全学共通教育センター、各学科と連携しながら、教職課程委員会を通じて運営・改善を継続している。	必要な業務は概ね適切に実施されているが、制度改正等への的確な対応のためには、今後さらなる職員の専門性強化や情報発信体制の整備が課題である。

中項目	FD・SDの実施状況		
観点	教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFD・SDが確実に実施され、実際に参加が確保できているか 等		
専攻 学科等	評価	現状(長所・特色/問題点など)100字程度	次年度に向けた改善施策100字程度
教育支援課	適	FDとして、2025年度は教職課程委員会委員を対象に、教員採用の現状や動向について情報共有を行い、教員を目指す学生のキャリア支援に活用している。 また、SDとして、都内私立大学教職課程事務担当者懇談会、大学教務実践研究会、京私教協へ継続的に参加し、得られた知見を学内で共有するとともに、教職課程事務の運営改善に反映させている。	教職課程委員会委員を対象としたFDのテーマについては、今年度実施後のアンケート結果を踏まえ、次年度以降のテーマ選定に活用する予定である。時流に即した内容とし、教職課程の質の向上に資するFDとなるよう工夫を図る。

中項目	授業評価アンケートの実施状況		
観点	個々の授業科目の見直しに繋がるFDの機会で活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか 等		
専攻 学科等	評価	現状(長所・特色/問題点など)100字程度	次年度に向けた改善施策100字程度
教育支援課	適	FD推進委員会による授業改善アンケートを実施している。アンケート結果を踏まえた授業改善報告書を各学科において確認し、状況の確認、改善を図っている。	点検の結果、現状維持とする。